

日本学術会議公開シンポジウム「海空宇宙の COVID-19 対応と今後のパンデミック対応に向けて」

日本学術会議フロンティア人工物分科会委員長、鈴木真二

日本学術会議連携会員、

東京大学名誉教授・未来ビジョン研究センター特任教授

主催者を代表しましてご挨拶させていただきます。日本学術会議は、人文・社会科学を扱う第一部、生命科学を扱う第二部、そして理学・工学を扱う第三部から構成され、フロンティア人工物分科会は、航空宇宙、船舶海洋という人類の活動のフロンティアに立ち向かう科学技術の諸問題を議論するために、第三部の総合工学委員会、機械工学委員会の合同分科会として2009年4月に設立され、定期的に公開シンポジウムを開催し、これまでに3度にわたり提言を行ってまいりました。

今回の公開シンポジウムは、COVID-19により人類が直面している危機に、船舶海洋、航空宇宙分野がどのような現状にあり、今後こうしたパンデミックにどのように対応すべきかという課題を議論し、またそれを見据えた国際運輸システムをどのように構築するのかを展望するために開催しました。個々の分野での議論は、既になされて来ていますが、本シンポジウムの特徴は日本学術会議ならではの分野横断的な取り組みにあります。人文・社会科学分野として、日本海洋政策学会の坂元茂樹会長（神戸大学名誉教授）から、また、生命科学分野として、第二部連携会員の田中純子教授（広島大学大学院医系科学研究科）から、それぞれ基調講演を頂き、船舶海洋、航空宇宙分野における産官学からのエキスパートの方々に各分野での対応と今後の展望をご講演頂きます。

本シンポジウム開催にあたり、一般財団法人運輸総合研究所および東京大学未来ビジョン研究センターには共催を、また、関係学協会団体、研究機関などには後援を頂き、関係者の方々の多大なご尽力により、おかげさまで700名近いWEB開催への申し込みを頂きました。この場をお借りして関係各位、またご参加ご聴講の皆様にご挨拶申し上げます。ここで頂いた様々なご意見を今後の分科会からの提言に活かしていきたいと思っております。